

## 4 政策目標を下支えする取り組み

### ～「市民<sup>※6</sup>の力でまちの環境力を高める」～

本計画の基本理念『真の豊かさ』にあふれるまちを創り、未来の世代に引き継ぐの実現に向け、市民、事業者、NPOなどの団体、学校、行政などあらゆる主体が、環境に貢献する誇りと自信を持って、それぞれの分野を超えて自ら政策目標の達成に参画して取り組み、まちの環境力を高めることで、『世界の環境首都』を目指します。

#### ○基本施策

##### (1) 環境活動と地域活性化の好循環

市域において、快適な環境の維持・創出を図るため、まち美化や自然環境の保全など、市民、事業者、団体等の活動を支援します。事業分野では、省エネやリサイクルの促進、再生可能エネルギーや再生資源の利用など、事業者の主体的な取り組みを促します。これらの取り組みを通じて、環境活動と地域活性化の好循環に繋がります。

##### (2) 優れた環境人材の育成

幼児期から学校、家庭、地域など様々な機会や場で、脱炭素やごみの減量、自然や生き物との共生などをテーマとした環境学習や自然体験を推進するとともに、事業分野においても、次世代を担う環境人材の育成に取り組み、多様な世代や主体において環境意識を高め、自ら様々な環境活動に取り組む社会を創出します。

##### (3) 環境国際協力・環境ビジネス等を通じたアジア地域への貢献

長年にわたる海外からの研修生の受け入れや技術者の派遣等を通じて培われてきた国際的なネットワーク、市民や企業等に根づく国際協力のマインドなどを背景に、環境・水ビジネスを展開し、アジア地域への貢献を高めていきます。

##### (4) 環境に配慮した行動の推進

気候変動問題、資源の循環、生物多様性の回復など、現在の環境問題の解決には、市民、事業者等の一人一人の行動変容が重要となっています。時代の変化に柔軟に対応し、市民をはじめとするあらゆる主体の参画を図るため、電子ポイントの付与や国の情報発信等も活用し、SNS、イベントなど様々な方法で、各主体の行動変容を促していきます。

<環境に配慮した行動の例> 日常生活の様々な行動が環境問題解決の第一歩

・脱炭素の分野では、

クールビズ・ウォームビズ、節電・節水、電灯のLED化、宅配便は一度で受け取り、ノーマイカーの推進(公共交通機関や自転車利用)、省エネ家電・次世代自動車の選択、太陽光発電など再生可能エネルギーの利用、断熱リフォームの実施、など

・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の分野では、

かん・びん・プラスチックなどを分別してごみの減量化、エコバッグの利用、マイボトルの利用、量り売りの奨励、古着のリユース、地元産食材の選択、食品の食べ切りや食材の使い切りなど

## 5 政策目標の設定

本計画では、重点的に取り組む4つの政策目標を設定します。

各政策目標は、相互に関連付けて取り組み、地域の資源を生かして、環境・経済・社会の多様な課題の同時解決を目指します。

### 政策目標Ⅰ 脱炭素(カーボンニュートラル)社会の実現

気候変動は、異常気象による災害や生物多様性への影響、健康リスクなど、様々な問題を引き起こすことから、社会全体で温室効果ガスの排出削減に取り組む必要があります。

北九州市では、洋上風力発電等によるエネルギーの脱炭素化や、イノベーションの推進、脱炭素型ライフスタイルの推進など、脱炭素(カーボンニュートラル)社会の実現に取り組めます。

### 政策目標Ⅱ 循環経済(サーキュラーエコノミー)システムの構築

資源を大量に消費する経済社会の活動は、気候変動問題をはじめとして、天然資源の枯渇や生態系の破壊など様々な環境問題にも密接に関係しています。

北九州市では、ごみの減量リサイクルに徹底して取り組むとともに、本市の強みであり、日本最大級のリサイクル産業の集積地である北九州エコタウンを生かし、廃棄物を資源として再利用する循環経済(サーキュラーエコノミー)を推進します。

### 政策目標Ⅲ 生物多様性と環境保全の推進

私たちの生活は、きれいな空気や水、食料、薬の原料など、生物多様性の恵みによって支えられていますが、この生物の多様性は急速に失われています。

北九州市では、生物多様性の回復を目指すネイチャーポジティブに取り組むとともに、市民一人一人が自然を大切に思い、育むための取り組みを進めます。

また、環境のモニタリングを適切に行い、良好な環境の維持に取り組むとともに、事業者による化学物質や有害物質の適正な管理、処理を徹底します。

### 政策目標Ⅳ 環境国際ビジネス拠点化の推進

北九州市がこれまで取り組んできた環境・上下水道分野の国際協力を基盤として、企業への支援機能の強化や国内外との関係機関との連携、戦略的な広報などに取り組み、環境国際ビジネスの拠点化を目指します。

#### 【「市民の力でまちの環境力を高める」と各政策目標の関係】

政策 目 標	I 脱炭素社会の実現	脱炭素電力の最大導入、工場の未利用熱の活用、水素拠点化、脱炭素ライフスタイルの推進 等
	II 循環経済システムの構築	ごみの減量リサイクル、北九州エコタウン、蓄電池のリサイクルシステム構築 等
	III 生物多様性と環境保全の推進	保全地域の拡大、自然の魅力の発信、環境アセスメント制度、大気等の監視測定 等
	IV 環境国際ビジネス拠点化の推進	企業と協働した海外ビジネス、帰国研修員や関係機関等とのネットワーク強化、戦略的広報 等

上記の政策目標を推進し、下支えする

「市民の力でまちの環境力を高める」… 政策目標推進の基盤であり、分野横断的取り組み

# 政策目標 I 脱炭素(カーボンニュートラル)社会の実現

## 1 政策目標の達成度を測る主な指標

指標名	現状値	目標値・令和12(2030)年度
市内の温室効果ガス排出量 (平成 25(2013)年度比)	29.4%減 令和2(2020)年度	47%以上削減 <sup>※7</sup>
再生可能エネルギー導入量	436MW 令和2(2020)年度	1,400MW

## 2 基本施策

### (1) エネルギーの脱炭素化

本市のポテンシャルを踏まえた太陽光発電や洋上風力発電の最大導入による脱炭素電力の安定した供給体制の構築に取り組みます。また、経済性の高い脱炭素電力の利用拡大や工場の未利用熱エネルギーの活用等により、市内産業の脱炭素化と競争力強化に繋がります。

また、産業・運輸部門など電化が困難な分野の脱炭素化のため、水素を原料にしたメタン合成による都市ガス導管注入の実証や、将来の大規模需要に備えた水素輸入など経済性の高い水素供給のための取り組み、市内で製造される副生水素・再エネ水素の利活用を促す取り組みなど、水素の供給利活用拠点化を推進します。

### (2) イノベーションの推進

産学官の連携強化に向けた脱炭素関連事業創出に繋がるプラットフォームの整備、国の制度の活用及び民間資金獲得に向けた伴走支援、人材育成・獲得プログラムを通じて、市内企業・研究機関等によるイノベーション創出を推進します。

### (3) 脱炭素型ライフスタイルの推進

「脱炭素型ライフスタイル」への移行に向けて、「再エネ100%電力」の導入、省エネ・断熱性能を高めて再生可能エネルギーを利用する住宅(ZEH:ゼッチ)・建築物(ZEB:ゼブ)を、公共施設における率先実行や市の認定制度などを通じて推進します。また、市民・事業者自らが、脱炭素に貢献する製品・サービスなどを選択できるよう積極的に情報発信を行います。

### (4) ゼロカーボンドライブや持続可能な公共交通ネットワーク等の推進

電気自動車をはじめとする次世代自動車等への転換を推進するとともに、乗換拠点など交通結節機能の強化や公共交通機関の利用促進を図ります。また、様々な交通手段を最適に組み合わせる予約から決済までを一括して提供する MaaS(マース)などの新たな移動システムの社会実装を見据えた取り組みを推進します。